

(10) 四 国



四国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

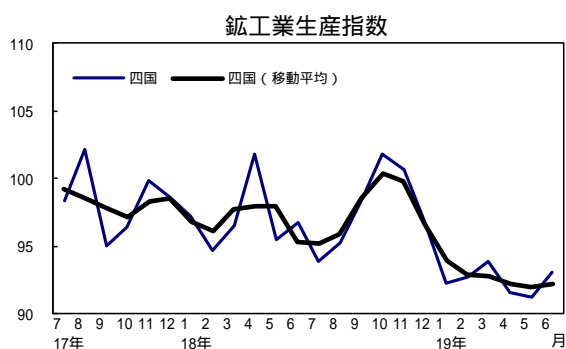
前回からの主要変更点

	前回(令和元年5月)	今回(令和元年8月)
景況判断	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	<u>一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調</u>
個人消費	底堅く推移	<u>持ち直しの動き</u>

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

4 - 6月期には、化学・石油石炭製品は、アニリン等の生産が増加したことにより、増加した。電気機械は、計数半導体ウェハー等の生産が減少したことにより、減少した。食料品は、増加した。はん用・生産用機械は、半導体製造装置等の生産が増加したことにより、増加した。非鉄金属は、横ばいであった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
化学・石油石炭	22.9	16.1	1.4	1.2	4.8	0.4
電気機械	15.8	8.1	6.9	14.4	4.7	5.6
食料品	10.5	2.7	2.0	4.6	1.8	0.3
はん用・生産用機械	10.0	7.1	1.4	0.9	0.6	8.2
非鉄金属	8.0	12.9	0.0	2.8	12.7	12.5
鉱工業	100.0	6.9	1.0	2.4	0.4	2.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4 - 6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 2010年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。
2. 四国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

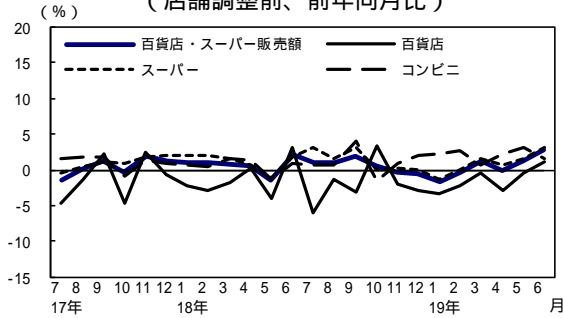
4月は前月比2.9%増、5月は同0.6%増、6月は同0.2%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4月は、衣料品が振るわなかったこと等を受けて、前年を下回った。5月は、引き続き衣料品が振るわなかったこと等から、前年を下回った。6月は、身の回り品が販売促進効果もあり、堅調であったこと等から、前年を上回った。

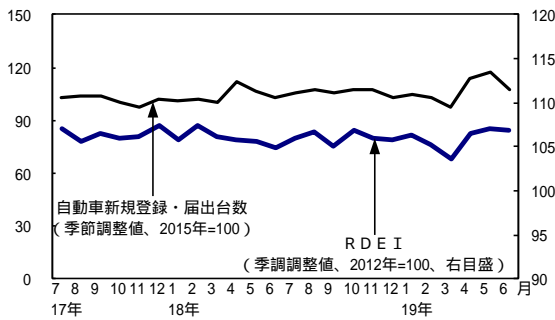
スーパーは、4-6月期は、飲食料品のうち、総菜、肉類、鮮魚が堅調に推移したこと等から、前年を上回った。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2019年4-6月	2019年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.7	2.9	0.6	0.2
百貨店・スーパー(*2)	1.3	0.1	1.3	2.8
百貨店(*2)	0.7	2.9	0.3	1.1
スーパー(*2)	1.8	0.6	1.7	3.2
コンビニ(*2)	2.3	2.2	3.1	1.7
乗用車(*3)	5.6	3.4	11.2	2.7
(季節調整値)(*3)	11.1	17.2	3.1	8.8

RDEI (消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

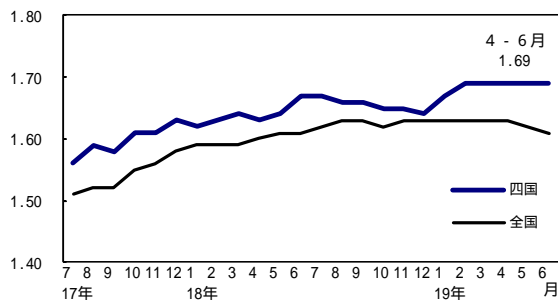
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

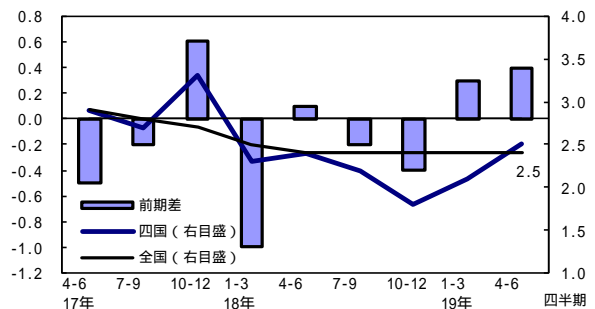
雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。

(倍) 有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



(ポイント) 完全失業率 (季節調整値) (%)



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。